

令和8年熊本地震上下水道施設被災状況調査

平成28年熊本地震から約10年後となる令和8年7月28日、九州地方は再び大規模な地震に見舞われました。宇城市および氷川町では震度7を観測するなど、熊本県南部を中心に非常に強い揺れが発生し、社会インフラに甚大な被害をもたらしました。国土技術政策総合研究所上下水道研究部では、上下水道施設の被災状況を現地調査し、被害の特徴や平成28年に被災した後に耐震対策を実施して復旧した下水道管路施設の状況等を把握しました。



①熊本市城南処理区(左:H28年、右:R8年) ②熊本市富合処理区(左:H28年、右:R8年)



③宇城市小川町水中ポンプによる下水管バイパス



④宇城市小川町人孔浮上(20cm程度)



⑤宇城市小川町配水管布設



⑥宇城市小川町断層付近(配水管修繕箇所)



⑦宇城市添架管破断(修繕済み)



⑧氷川町上天草送水管(転がし配管)



⑨支援団体職員による音響漏水調査



⑩八代JCT付近断層



⑪八代JCT付近PEφ100転がし

【下水道管路】

- ①② 平成28年に被災し、埋戻し土の耐震対策を実施して復旧した熊本市内の下水道管路について、本調査箇所では路面上の異状は確認されなかった(②H28年写真の管線形に沿った路面補修跡から、路面陥没があったと推察)
- ③ 山麓部の断層付近で、流下機能が確保できなかったスパンにおいて、水中ポンプ設置によりバイパス実施
- ④ 水田を通る道路上に設置された人孔が約20cm浮上していた。本調査では、これより高く浮上した人孔は確認されず

【水道管路】

- 宇城市、氷川町、八代市の配水区域東側の山麓部にある断層に沿う形で顕著な管路被害を確認
- ⑤ 開削による配水管布設状況
 - ⑥ 断層部の配水管修繕跡(補修部の高低差約60cm)
 - ⑦ 刈萱(カキヤ)橋で朽ずれにより添架管が破断(仮設管にて応急復旧実施)
 - ⑧ 上天草送水管の地上転がし(SUSφ300)。地盤の緩みなど道路面の変状進行が懸念される箇所であるため転がしの仮設管を採用
 - ⑨ 支援団体職員による音響漏水調査実施状況
 - ⑩ 八代市八代JCT付近の断層の状況
 - ⑪ 八代JCTの工事箇所であり、早期通水のため地上転がしの仮設管を採用